

令和2年度第2回白石市まち・ひと・しごと創生戦略会議

開催概要

- 1 日 時 令和2年11月13日(金) 午後1時～午後2時
 2 場 所 白石市防災センター2階 会議室

委員

番号	区 分	団 体 等 名 称	役職	氏名	
1	産 業 界	白石商工会議所	会 頭	齋藤 昭	
2		白石蔵王地区 企業連絡会		猪股 政浩	欠席
3		白 石 市 産業振興会議	代 表	佐藤 全	
4	教育機関	宮 城 大 学	名誉教授	富樫 千之	
5		宮 城 県 白石高等学校	校 長	佐藤 浩	
6		白 石 市 立 小中学校校長会	会 長	狩野 隆	欠席
7	行政機関	東 北 財 務 局	総務課長	大山 佳孝	欠席
8		宮城県大河原地方 振興事務所	地方振興部長	狩野 裕一	
9		大河原公共職業 安定所白石出張所	所 長	菅野 良恵	
10	金融機関	七 十 七 銀 行 白 石 支 店	支店長	佐藤 英明	
11		仙南信用金庫	地方創生支援業務 担当部長	伊藤 哲也	
12	労働団体	連合白石地区会議	事務局長	千葉 匠司	欠席
13	報道機関	フリーアナウンサー		船越 理香	欠席
14	学 識 経験者等	白石市歴史文化 アドバイザー		麻生 菜穂美	
15		白 石 市 議 会	議 員	佐藤 秀行	
16		白石市観光協会	会 長	佐藤 善一	
17		白石青年会議所	理事長	遠藤 直秀	欠席
18		み や ぎ 仙 南 農業協同組合	白石地区事業本部 地区事業本部長	大沼 和則	欠席
19		白石市認定農業者 連絡協議会	(有)竹鶏ファーム 常務	志村 竜生	

20		白石刈田地区 父母教師会連合会	会 長	平間 克治	欠席
21		子育て世代代表		佐藤 智美	
22		プランニング開 代表・アトリエ自遊 楽 校 主 宰		新田 新一郎	
	白 石 市 出 席 者				
		白 石 市 長		山田 裕一	
		白 石 市 副 市 長		菊地 正昭	
		白石市総務部長		古山 光春	
		白石市総務部 地方創生対策室		毛利 春樹	
		〃		佐藤 弘子	
		〃		山田 裕介	
				松本 志畝	

配布資料（以上、事前配布）

【次第】

【委員名簿】

【資料1】白石市まち・ひと・しごと「第2期総合戦略」（案）

【資料2】事前意見

3 議事概要

○委嘱状交付

仙南信用金庫からの委員に異動があったため、新委員に対し委嘱状を交付。

- 「第2期総合戦略」に掲げる施策の方向性について、あらかじめ配布した【(案)白石市まち・ひと・しごと創生「第2期総合戦略」】等の資料の説明を行い、それらに対する委員の皆様からのご意見をお伺いした。

（事務局説明内容）

資料に基づき、人口ビジョンの分析結果と今後の総合戦略の策定イメージを説明。

（委員からのご意見）

麻生委員：総合計画に基づき、白石が目指すべき姿をきっちり計画されているものと思う。基本目標は非常に素晴らしいが、「今後具体策はだれがどのように決めるのか」ということを明確化して欲しい。白石が目指すべき姿は「誇り」。シビックプライドともいえるが、「誇り＝ブランド化」が必要で、飲食・観光を含めて白石にしかないものを生かし、市民が

誇りを持てるということを中心に考えていかなければならない。

また、データでは若者の転出が多い。ブランド化が図れない限り、若者の転出は避けられず、減少傾向は改善されない。

人の移住に関して、地方(白石)の中小企業者がどのような人材が不足しているか、どのような機能を担ってもらうべきか明確化できていない事実がある。東京などの都市圏の人材紹介業者にとって、地方への展開に消極的な業者が多い。大都市圏との人材のマッチングをどのように進めていくか、ということも考えなければならない。

安心と新しいソサイエティコンテンツは同じ枠の中で考えなければならない。ノベルティ、交通の一元管理など公共サービスのスマート化は、地域にとってかかせないものになる。限られた予算の中で、企業と連携し、いかに安く効率的に導入していくか、最優先課題で考えていただきたい。

事務局：現在、第六次総合計画との整合性を図るため、分野横断的な枠組みの中で検討いただいたご意見等を各課の方に投げ掛け、第1期の総合戦略の継続事業、総合計画の検討段階でご意見をいただいた事項も踏まえ、今後新たに取り組む事業を取りまとめの上、今後の目標設定に落とし込んでまいりたい。

また、前回と今回、委員の皆様から頂いたご意見も、次回の会議にお示しする案の中に盛り込んでまいりたい。今後も皆様からのご意見をさらに頂戴したいと考えている。

麻生委員：市民アンケートはいつ頃行うのか。

事務局：総合計画と一体で進めており、今後具体的にどのように盛り込むか検討し、お示しする予定。

麻生委員：市民アンケート・庁内のヒアリングをきちっと行うとともに、県や国、海外の事例なども参考にしていきたい。そもそも国の施策に則っているので、KPIやPDCAなど出てくるが、PDCAは少し古い考え。こういったものは、コロナも含み、往々にして外的要因に左右され、時間の経過とともに形骸化してしまう恐れがある。目標設定することが目標となることのないよう、しっかりとした検証をしていただきたい。最近はOKRという考え方があり、ソフトバンクやトヨタといった先進企業が導入している。「個人と組織を連動しやすくする」考えなので、「市長と組織が全員で同じ目標を持てる」のではないか。柔軟性を持って見直しを行って施策を進めていただきたい。

富樫会長：進め方としては、庁内のヒアリングとパブリックコメント、県とのすり合わせ、さらに外国の事例など、幅広い事例を取り入れた上で作成して欲しいということ。目標設定においては、マンネリ化しないような工夫と、もっと柔軟に行なって欲しいとのご意見であった。

次回は事務局より具体的な提案が盛り込まれると思うが、18歳前後で人口流出がみられる。マッチングの面と、大学卒業後に白石の魅力を

再認識して帰って来てもらえればよいのではという意見をいただいた。世界では人口が増える一方で、先進国では減少。地域偏差があり、例えば、東京一極集中という現象がみられ、白石の中にも小原地区では、人が減っており、将来の縮図がみられる。

新田委員：グラフを見ると、このままでは白石市は白石町になってしまう。仙南でも、柴田は割と良い数字。昔良かった白石・角田は厳しい状況。何とかするためには、一つは「産み・育てる」。まずは「産む」ために産婦人科を何とか白石に作るということをやると、それで子育て世代が白石に住み・育てるということにつながる。もう一度それらを考えてもいいのではないか。

奇跡の出生率を出した「長野県下條村」では、住民参加のまちづくりを進めた。男女共同参画の次は「子ども若者の参画」。子どもや若者は10年もするとまちの担い手となるので、そういったこともぜひ考えて欲しい。白石工業高校の教頭先生によると、去年は、75%位の生徒が地元に残った。なぜかというのと地元と絡んでプロジェクトをやるから。ササニシキのプロジェクトも高校生と色々行っているが、そういった取り組みを拡大すると地元で頑張ろうという若者が生まれて、地元でいずれ戻ってくるというようなことができるのではないか。

「子ども若者の参画」と「産む」という点を再度提案したい。

富樫会長：難しいかもしれないが、もう一度「産む」について考えて欲しいという意見。それから、学生の学力アップと併せて、視点を「地域」に向けさせるということが大切というご提案であった。

事務局：いただいた貴重なご意見を、素案の中に落とし込み、検討を重ねてまいりたい。

市長：いただいたご意見は大変重要。私事ですが市長選挙において周産期医療の復活についても公約に掲げさせていただいた。中核病院では10月から周産期医療がストップしてしまい、現在仙南の公立病院で産める医療機関はゼロ。仙南で赤ちゃんを安心して産める環境の整備は非常に重要だと思っている。医師不足と言われている中で、民間の力も借りて、刈田病院で再度周産期医療の復活をと考えている。安心して赤ちゃんを産める環境、子育て環境、教育環境をより充実。選ばれるまちづくりは非常に重要。今後とも委員の皆様からの意見を形にできるよう努力してまいりたい。

佐藤全委員：さまざまな委員をやる中で、Uターンは非常に厳しい。それは、進学する段階で子の親が「白石はダメだ」と言ってしまって、子どもが戻らない事態が起きているから。地元で勤める親が地元の環境を良く思っていないからで、行政のみならず地元企業が社員の満足度を上げる取り組みが大切。

もう一つは、地元を出た子が個人情報関係等で地元と分断されている。県外では青森県人会、秋田県人会等はとても活発だが、

宮城や白石にはそういったものがない。地元に戻るにも戻るためのコミュニティが必要。難しいかもしれないが、各地に白石のコミュニティを作るための、情報発信や顔出しをするなどの取り組みも必要で、また、小中学校、高校における「志教育」も必要。なんとなく進学して地元を離れてしまう。地元企業が学校と関わっていき地域の魅力を伝えることが必要。

また、大学進学において奨学金ありきで進学する子が多い。その返済の負担が大きく、働けないということに。奨学金の一部補助、地元企業からの就学支援、行政と企業の支援で資格をとるための専門学校に通わせる等々、そういったこともしないと、地元での人材確保が難しい時代になっていて、そのための枠組みを作らないと、白石の子が金銭的理由で進学できない事態にまで行きつくことも考えられる。

白石を出る前、出た後、出ている最中にどうケアするか、3つの視点で考えてほしい。

事務局：市も白石高校様、中小企業同友会様と協定を結び、さまざまな取り組みを行っている。奨学金制度など、ふるさと納税の仕組みの活用を含めて、企業の皆様とも相談しながら今後検討してまいりたい。これから事業に落とし込む中で、奨学金の金額や対象等、多くの検討が必要。検討してまいりたい。

齋藤副会長：資料の使い方について、社人研の人口推計だけが出ているが、それだけでは結論は出てこない。最近、国ではAIを使ったものも出てきているので、そういったものも検討して欲しい。1つはまち・ひと・しごと創生本部でRESASというものがあって、これは非常に有効な分析ツール。もう一つは昨年、環境省で地域経済循環分析というものがでた。これもよい分析ツールだと思うので活用して欲しい。

また、人口動態について、日本全国と白石をいくら比較しても仕方がないと思う。近隣の市町村の中で人口動態が大きく変わっているところがあるが、例えば、H27とH2年の25年間で仙南2市7町の人口動態は、白石は17%減、大河原町は16%増、柴田町6%増。こんなに近いところで人口動態がなぜこんなに違うのかを分析しないと、答えはでない。白石だけの人口動態を見るだけでは、いい提案がでてこないと思うので、RESAS、地域経済循環分析も併せて取り入れて欲しい。

事務局：総合計画の担当課とも詰めた上で、どの程度まで盛り込めるかは定かではないが検討を行う。

《このほか意見なし》

富樫会長：今後、基本的な施策が具体的に出て、委員の皆様が届く。その際には、さまざまなご意見・新しいご意見等をいただきたいと思う。

(以上で閉会)